

	音 楽 研 究 会 部 会 記 録				
日時	平成 31 年 1 月 9 日 (水) 15 : 30～16 : 45				
部会名	研修部 授業実践部会			主任	今泉 美保
参加数	36 名	司会	梶 淳子	記録	森野 淳
研 修 内 容	二部会合同「卒業式に向けての指揮法」 講師：横浜市立石川小学校 副校長 宮崎 里子先生 場所：横浜市立桜岡小学校 音楽室				
	① 指揮の基本について ピンポン球が落ちていく軌跡を辿っていく それが「たたき」の基本になる。 この「たたき」が大切。打点をはっきりさせること、手首を動かさないことが大切。 ② 研究会に参加していただいた先生方でペアを組み、指揮と歌を実践する ・大空がむかえる朝 言葉をしっかり歌わせるように指揮をするとよい。 打点はシンプルになるようにしたい。 クレッシェンドなどの強弱を分かりやすくできるとよい。 休符も大切に。 最初の部分は B4 サイズくらいの大きさに振れるとよい。 ※宮崎先生の御指導では、指示は左手と視線でされていた。声部ごとの出だしを合図する。曲の最後の部分は包み込むように終わる。曲の雰囲気合う立ち居振る舞いをしてほしい。 ・変わらないもの 自分の中にダイナミクスのイメージがあれば、そのように指揮を振る。 「あなたがいて・・・」の部分が分かりやすく振れるとよい。 歌い出しは、1 拍前で吸うのではなく事前に吸っておき、息を止め、明確な発語を意識するとよい。 テヌートの部分は静止していてもよい。 アクセントの部分（心の中に、の部分）は手をグーにしてイメージをつくるとよい。 裏拍のアクセントを強調する感じで歌わせられるとよい。 曲の山の部分はレガートで歌わせるか、ビートを感じさせるかは指導者の好みでよい。 伸ばしている音の処理のしかた（閉じ方）も大切にしたい。 ③ 全員で「旅立ちの日に」を歌う 最後の部分（大空に）は、指揮を振ってしまうと子どもたちが数えてしまっていて、音楽的にはあまりよろしくないの、静止して最後のきっかけだけ出してあげる感じにするとよい。 全体的には 3 拍目が流れすぎないようにしたい。				